カトリックジャパン ダイジェスト 5
2025
カトリック新聞
第2号　発行＝カトリック中央協議会 広報部　〒135-8585東京都江東区潮見2-10-10　日本カトリック会館内　電話（03）5632-4435　FAX（03）5632-7030

# 新教皇レオ14世誕生

## 平和を広め 共に前進する教会へ

5月8日（日本時間9日）、新教皇に選出されたロバート・フランシス・プレボスト枢機卿はレオ14世を名乗り、バチカンのサンピエトロ広場に集まった人々にあいさつした（写真左）。バチカンのシスティーナ礼拝堂の上の煙突から噴き出す白い煙。新教皇の選出を知らせた（写真右上）。バルコニーに現れた新教皇を迎え、歓声を上げる人々（写真右下／CNS）

**新教皇選出・国際**

■ 新教皇レオ１４世誕生　１面
■ 新教皇、最初の言葉は「キリストの平和」　２面
■ 新教皇就任ミサ　世界を癒やす「一致した教会」　３面
■ 新教皇略歴　３面
■ コンクラーベに参加した枢機卿　４面
■ 聖アウグスチノ修道会　松尾太（ふとし）神父に聞く　４面
■ 教皇フランシスコ葬儀ミサ「人々のただ中にある教皇」　５面

**国　内**

■ 教皇フランシスコ追悼ミサ
　東京カテドラルに１０００人集う　６面
■ ワールドユースデー（ＷＹＤ）のシンボル
　十字架とイコン　全教会管区を巡る　７面
■ 復活祭を前に振り返った受洗の時
　「神様が見せてくださった景色」　８面
■ 主日の福音解説　９・１０・１１面
■ 映像・映画　１１面
■ 訃報・告知板・番組　１２面
■ きょうをささげる（祈祷（きとう）の使徒）６月　１２面

オンラインで日々ニュースを配信している「カトリックジャパンニュース」のダイジェスト紙、月刊「カトリックジャパンダイジェスト」をお届け致します。
（「カトリックジャパンニュース」には下記ＱＲコードからアクセス可）

カトリックジャパン ニュース

新教皇選出

# 新教皇、最初の言葉は キリストの「平和」

【バチカン５月８日ＣＮＳ】米中西部シカゴ出身で、教皇フランシスコの下で教皇庁司教省長官を務めたロバート・フランシス・プレボスト枢機卿（６９）が５月８日、第２６７代教皇に選出され、レオ１４世を名乗った。

北米出身者が教皇に選ばれるのは史上初で、プレボスト枢機卿はコンクラーベ（教皇選挙）前に、聖ペトロの後継者になる可能性のある米国の枢機卿として最も多く名前が挙がっていた。

白い煙がローマ時間午後６時７分（日本時間９日午前１時７分）にバチカンのシスティーナ礼拝堂の屋根の煙突から吹き出し、その数分後に聖ペトロ大聖堂の鐘が打ち鳴らされた。

白い煙が出たことを聞きつけた人々がローマ中から駆け付け、既に煙を見ようとサンピエトロ広場に集まっていた数万人に加わり、１０万人ほどの人出になった。

助祭枢機卿でフランス出身のドミニク・マンベルティ枢機卿が午後７時１２分、聖ペトロ大聖堂の中央バルコニーに現れ、集まった人々にラテン語でこう告げる。「私は皆さんに大いなる喜びをお知らせします。私たちに教皇が授けられました」。続いてプレボスト枢機卿の名と新教皇がレオ１４世を名乗ることを同じくラテン語で発表した。

### 平和を世界に広めて 共に前進する教会へ

その２０分後、新教皇レオ１４世はバルコニーに姿を現し、白い教皇のカソックと赤いマッゼッタ(ケープ)、赤いストラを身に着けて、ほほ笑みながら人々に手を振り、最初の公な「ウルビ・エト・オルビ」(ローマと全世界へ)の祝福を送った。

集まった人々が「ビバ・イル・パパ」(教皇万歳）と繰り返し叫ぶと、レオ１４世の目に涙が浮かんだように見えた。

「あなたがたに平和があるように」が、レオ１４世が最初に人々に向けて発した言葉だった。

「親愛なる兄弟姉妹の皆さん、これが復活されたキリストの最初のあいさつです。主は神の群れのためにいのちを差し出された良い羊飼いです」と新教皇は続け、キリストの平和が人々とその家族の心と「世界全体」に広がるようにと祈った。

復活された主の平和は、「武装することなく武装を解く平和です」とレオ１４世は強調する。

教皇フランシスコの教皇職からの継続性を強くにじませながら、教皇レオ１４世は人々に向けて告げる。神は「私たち皆を無条件に愛してくださる」。教会はあらゆる人に開かれていなければならない。

5月8日、新教皇に選出されたロバート・フランシス・プレボスト枢機卿は、レオ14世を名乗り、バチカンのサンピエトロ広場に集まった人々にあいさつした（CNS）

「私たち全員が神のみ手のうちにあります」と新教皇は強調し、続ける。「ですから、恐れることなく、一致して、神と共に互いに手を取り合って、前に進んでいきましょう」

### 「共に宣教する教会」 人々に寄り添う教会

新教皇は４回目の投票で自身を選出した枢機卿たちに感謝を表し、「ペトロの後継者となり、一致した一つの教会として皆さんと共に歩み、常に平和と正義を求めて」、共に宣教するキリストの弟子となることを誓う。

広場に集まった人々には、自身が聖アウグスチノ修道会士であることを告げ、聖アウグスティヌスの言葉を引用して、「皆さんと共に私はキリスト信者で、私は皆さんのための司教です」と語った。「私たちは共に宣教する教会となる努力をしなければなりません。橋を築いて、常に対話をし、常にあらゆる人を受け入れるために開かれた教会です。ちょうど、この広場があらゆる人、苦しんでいる全ての人のために両腕を広く開いているように」とレオ１４世は強調する。

新しいローマの司教は、ローマ教区と全カトリック教会の人々に語りかける。「私たちはシノドス的な（共に歩む）教会になりたいのです。共に旅をする教会、常に平和を追求し、常に愛を求めて、人々に寄り添うこと、特に苦しんでいる人に寄り添うことを願う教会です」

教皇レオ１４世は人々に、共に「アヴェ・マリアの祈り」を唱えるよう呼びかけてから、最初の荘厳な祝福を送った。

### 奉仕と福音宣教を　真に願う人になる

南米ペルーで長年、宣教師として働いた６９歳の新教皇は、米国とペルーの市民権を併せ持つ。

イタリアの日刊紙「ラ・レプッブリカ」は４月２５日、プレボスト枢機卿を「国際人で内気」と紹介していたが、それと同時に、「保守派と進歩派の双方から高く評価されている。互いに知り合いが少ない（枢機卿たちの）コンクラーベで世界的に知られている存在」だとも指摘していた。

その知名度の高さは、教皇庁司教省長官を２年間務めていたことによっている。教皇フランシスコが多くの教区の司教を選ぶ助けとなり、ローマを訪れる多数の司教たちとも会ってきた。

新教皇はペルー北部チクラヨ教区の司教を務めていたが、２０２３年１月に教皇フランシスコによりバチカンに呼び寄せられた。

プレボスト枢機卿は２３年８月、シカゴの小教区で、教皇フランシスコが自身を司教省長官に任命したのは、「ローマ教皇庁の誰かにこの役職を担わせたくなかったからです。教皇は宣教師を、外からの人材を望み、違った見方をする誰かを欲しておられたのです」と説明していた。

司教たちの間にある聖職者主義的な態度を改めてもらうためには、「奉仕と福音を告げ知らせることを真に願っている人を探すことが重要なのです。ただ雄弁に語るのではなく、実際に模範と証しを示して伝える人です」と語っていた。

その際に同枢機卿は、教皇フランシスコが聖職者主義に対する「最も力強く、重要な」防波堤になり得たのは、「行いで説く牧者」だったからだと説明していた。

シカゴ生まれの新教皇は、聖アウグスチノ修道会の総長も務め、最初は宣教師として、のちにチクラヨ教区司教として、２０年以上ペルーで働いていた。

教皇レオ１４世は英語とスペイン語、イタリア語、フランス語、ポルトガル語を話し、ラテン語とドイツ語も読める。

新教皇選出

# 教皇レオ14世就任ミサ
# 世界を癒やす「一致した教会」

【バチカン５月１８日ＣＮＳ】教皇レオ１４世は５月１８日、和解と交わりを呼びかけることで自身の教皇職を開始し、公式に聖ペトロの後継者の任に就いた。「一つになった教会、一致と交わりのしるしとして、世界の和解のパン種となる」よう促す。

「この私たちの時代に、私たちがいまだに目にするのは、あまりにも多くの不和や憎しみと暴力と偏見、違いへの恐れ、経済的枠組みによる地球資源の搾取と最も貧しい人々からの搾取がもたらす傷です」と教皇レオ１４世はバチカンでささげた就任ミサの説教で指摘した。

「こうした状況の中で私たちが願うのは、一致と交わりときょうだい愛の小さなパン種となることです」とレオ１４世は、サンピエトロ広場と周辺に詰めかけた約１５万の人々に語りかける。「私たちは世界に向けて、謙遜にそして喜びのうちに言いたいのです。キリストを仰ぎ見てください。主に近づいてください。光と慰めを与えてくださる主のみことばを受け入れてください。愛を差し出す主に耳を傾けて、主の一つの家族に加わってください。『私たちは彼（キリスト）一人のうちに一つ』です」

この聖アウグスティヌスの言葉からの引用は、レオ１４世の司教職のモットーで、紋章に記されている。

キリスト教諸教派や諸宗教の指導者、世界１００カ国以上の使節団が来賓として、サンピエトロ広場でささげられた教皇レオ１４世の就任ミサに参列していた。

レオ１４世はミサが始まる前に、５月８日に選出されてから初めて、パパモービレ（教皇専用車）でサンピエトロ広場に乗り入れ、信者たちにあいさつして回ると、人々の間から「ビバ・イル・パパ」（教皇万歳）の叫びが上がった。教皇はその後、聖ペトロ大聖堂内に入り、東方典礼カトリック教会の総大司教たちに伴われ、聖ペトロの墓前で祈った。

### 「兄弟姉妹に奉仕する」教皇職

ミサの中では福音朗読の後、３人の枢機卿たちがペトロの奉仕職の公式な開始に際しての儀式に携わった。①イタリアのマリオ・ゼナーリ枢機卿は教皇の肩に普遍教会の牧者としての役割を象徴する「パリウム」（白い羊毛の肩衣）を掛け、②フィリピンのルイス・アントニオ・タグレ枢機卿はキリストの網に人々を引き寄せる聖ペトロの使命を表す「漁夫の指輪」を授与して、③コンゴ民主共和国のフリドラン・アンボンゴ・ベスング枢機卿が新たな教皇職に聖霊の力添えを願う祈りをささげた。

教皇レオ１４世はミサの説教で、イエスが聖ペトロに３度にわたって羊の世話を求めた「ヨハネによる福音書」からの朗読箇所に触れ、ペトロの教皇職はそれ自体の権威にではなく、奉仕と一致のための愛に根差していると説明した。

「こうしてペトロは、『より愛する』ことと群れのためにいのちをささげるという任務を委ねられたのです」と教皇は続ける。「ペトロの奉仕職はまさに、この自分をささげ尽くす愛によって際立ちます。ローマの教会は愛によって導き、その真の権威はキリストの愛にあるからです」

ペトロの後継者は「唯一の指導者となり、委ねられた人々を支配することへの誘惑に決して屈することなく、兄弟姉妹たちの信仰に奉仕し、共に歩むことを求められています」。

5月18日、就任ミサの前にサンピエトロ広場に向かう間、信者たちにあいさつする教皇（CNS）

### 「人類の調和のパン種となる教会」

教皇レオ１４世はさらに、教皇フランシスコの逝去に伴う服喪の期間を思い起こし、それに続いたコンクラーベ（教皇選挙）は「恵みの時」だったと語った。

「私が選ばれたのは、私自身に何かの取りえがあったからではありません。そして今、恐れと震えと共に、私は兄弟として皆さんに臨んでいます。皆さんの信仰と喜びに奉仕し、皆さんと共に神の愛の道を歩みたいと願っています。主は私たち皆が一つの家族として一致することを望んでおられるのです」

「聖霊の光と力によって、神の愛に根差す教会、一致のしるしを共に築いていきましょう。世界に両腕を広げる宣教する教会です。みことばを告げ知らせ、歴史の中で『安らいでいず』に、人類の調和のパン種となる教会です」とレオ１４世は呼びかける。

教皇レオ１４世はミサの終わりの「アレルヤの祈り」の前に、世界各地で戦争に苦しめられている地域のための祈りを促し、特に「公正で永続的な平和のための交渉を待っている」パレスチナ・ガザとミャンマー、ウクライナを挙げた。

## 新教皇　略歴

新教皇が高校生の時（OSV）

**１９５５年**　米国シカゴに生まれる
**１９７７年**　聖アウグスチノ修道会入会
**１９８１年**　終生誓願宣立。
**１９８２年**　司祭叙階。
**１９８４年**　宣教活動のためペルーに派遣。
**２００１年**　同会総長に選出。
**２００８年**　「ペトロ岐部司祭と１８７殉教者」の中に同会司祭のトマス金鍔（きんつば）次兵衛（じひょうえ）が含まれたため来日し列福式に参列。
**２０１４年**　教皇フランシスコにより、ペルー・チクラヨ教区使徒座管理者に任命。司教に上げられる。
**２０１９年**　教皇庁聖職者省委員に任命。
**２０２０年**　教皇庁司教省委員に任命。
**２０２３年**　教皇庁司教省長官、ラテン・アメリカ委員会委員長に任命。枢機卿として叙任される。
**２０２５年**　教皇に選出されレオ１４世と名乗る。

新教皇選出

# 教皇レオ14世の誕生に当たって コンクラーベに参加した枢機卿

今回のコンクラーベ（教皇選挙）には、日本から菊地功枢機卿（東京教区大司教）と前田万葉枢機卿（大阪高松教区大司教）が参加した。

菊地枢機卿は５月９日、日本カトリック司教協議会会長としてメッセージをカトリック中央協議会のサイトに発表。新教皇レオ１４世について、「聖アウグスチノ修道会に属する修道者であり、また米国出身者として初めての教皇となられましたが、聖アウグスチノ修道会の総長を務めた経験や、ペルーにおける豊富な宣教師としての体験、さらにはペルーで教区司教として務めておられたこともあり、福音宣教の現場に精通しておられる教皇様です」と伝えた。

コンクラーベの直前にほぼ毎日繰り返された枢機卿会議の中では、参加した１８０人の枢機卿のうち、自身や前田枢機卿を含めたほぼ全員が発言する機会を与えられたという。その中で繰り返し強調されたのは、「教皇フランシスコの類い希（まれ）な深い霊性に基づく決断力と行動力への感謝の言葉であり、同時に教皇フランシスコが残された道

菊地功枢機卿

前田万葉枢機卿

を継続して歩み続けることの必要性」だった。しかし枢機卿団は、教皇フランシスコの後継者を探しているのではなく、使徒ペトロの後継者を探し求めていることを、皆が心に深く留めていたと菊地枢機卿は続ける。「枢機卿団が祈りのうちに求めたのは第二の教皇フランシスコの誕生ではなく、主ご自身から牧者となるように委ねられた教会を忠実に導く使徒ペトロの後継者でありました。多くの枢機卿が、多様性を尊重しつつも、信仰における明白性を持って、教会が一致することの重要性を強調されました」

また菊地枢機卿は、自身のブログ「司教の日記」（５月１１日）でコンクラーベに参加した体験を掲載。まず多くの人の祈りに感謝を表した。

選挙の内容について口外することはできないが、宿泊施設では電子製品が全て没収されて情報が遮断されたこと。その結果「やることがなく」なり、祈る時間を持つことにつながったことなどを述べている。

映画『教皇選挙』については「よくできた映像」としながらも、そこで描かれたようなあからさまな票の取りまとめなどの「生臭い」話は全く起こらず、「食事の席では、自分の国の教会について互いに教え合ったり、非常に和気あいあいとしていました」と述べた。選挙結果を断定的に書いたメディアもあるが、実際に見たこととはかけ離れていたこと、事実は１３３人の枢機卿団が「祈りのうちに投票を繰り返し、主イエス御自身がすでに選ばれているに違いないペトロの後継者を見いだすために投票を続け」、プレボスト枢機卿が選出された。「それだけです」と書いている。

前田枢機卿はカトリックジャパンニュースのサイトで、プレボスト枢機卿に３分の２以上の票が入った時点で拍手が湧き起こったと伝え、「聖母マリアと聖霊の働きがあったと感じました。この歴史的選挙に関わった経験は忘れません」と述べて、「パパレオーネ（教皇レオの意）　ビバ　パパレオーネ　五月晴れ」の句を披露した。

# 聖アウグスチノ修道会

## 日本の責任者 松尾太（ふとし）神父に聞く

教皇レオ１４世が所属する聖アウグスチノ修道会は、日本の教会で１１人の兄弟（会員）が働いている。責任者の松尾太（ふとし）神父＝写真＝に同会について、また来日経験もある新教皇への思いを聞いた。

### 新教皇誕生の知らせを聞いて

最初は夢のようだと思いました。けれどもすぐに、聖霊が本当に素晴らしい方を全教会の牧者に選んでくださったと確信し、喜びがあふれてきました。

### 新教皇の人柄は？

相手を心から受け入れ、聴くことができる人です。特に、貧しい人や傷ついている人を、言葉だけでなく本当に自分の兄弟姉妹として大切にする人です。とても謙虚で、ユーモアもあり、みんなの兄弟として共に歩んでくださいます。

### 聖アウグスチノ修道会とは？

１３世紀のイタリアで托鉢（たくはつ）運動の中から生まれた修道会で、ヒッポの聖アウグスチノの修道会則に従い、思いと心を一つにし、神に向かって共に歩むことをモットーとしています。

共同生活からあふれる実りをもって、宣教司牧、学校教育、学問研究、社会福祉など、教会と社会の必要に応えてあらゆる人々に奉仕する兄弟会です。

１７世紀初めにフィリピンから日本に宣教師が派遣され、福者エルナンド・アヤラやバルトロメオ・グチエレス、トマス金鍔次兵衛（きんつばじひょうえ）などが主に大分や長崎で活躍しました。

戦後、アメリカのビラノバ管区とシカゴ管区からの宣教師たちによって長崎で共同体が復活し、現在兄弟たちは、長崎、福岡、名古屋、東京の修道院で生活しながら、小教区司牧や教育活動、社会奉仕に取り組んでいます。

### 新教皇に期待すること

パパ様に期待するというよりも、わたしたちのお兄さんであるパパ様がわたしたちに期待することに、全力で応えたいという気持ちです。

初めに「あなたがた皆に平和があるように！」とあいさつされ、本気で世界中の人々の心に橋を架けようと力強く歩み始められたレオ１４世と思いと心を一つにし、苦しむ人、弱い立場に置かれた人の声によく耳を傾け、深い愛情をもって全ての人との交わりを大切にし、兄弟皆で歩んでいけるよう祈っています。

㊤2008年11月に長崎市で行われた「ペトロ岐部司祭と187殉教者列福式」で。レインコートを着た司祭団の一番左がプレボスト神父（当時）　㊥列福式翌日、旧扇山分校跡で行われた金鍔次兵衛（きんつばじひょうえ）神父の列福感謝ミサの後　㊦ミサ後、公民館で振る舞われたうどんを割り箸で食べるプレボスト神父

国　際

# 教皇フランシスコ葬儀ミサ「人々のただ中にある教皇」

4月26日の葬儀ミサの後、改造されたパパモービレ（教皇専用車）の後ろに載せられて、ローマ市内の聖マリア大聖堂に向かう教皇フランシスコのひつぎ（OSV）

【バチカン４月２６日ＣＮＳ】教皇フランシスコは「全ての人に開かれた心を持つ、民のただ中にある教皇でした」と４月２６日、枢機卿団で首席枢機卿を務めるジョバンニ・バッティスタ・レ枢機卿は、２１日に８８歳で逝去した教皇の葬儀ミサを司式する中で指摘した。

バチカンのサンピエトロ広場でささげられた葬儀ミサに参加した約２５万の人々は、ミサの祭壇前に教皇フランシスコのひつぎが運ばれるのを見守った。

教皇フランシスコのひつぎはミサ後にパパモービレ（教皇専用車）でローマ市内の聖マリア大聖堂へ運ばれ、埋葬された。ひつぎを運ぶ車列は、教皇が２０１３年３月１３日の選出以来、司教を務めてきたローマの中心部を通った。

当日のバチカン周辺の警備は厳重で、それは多数の葬儀ミサ参列者が見込まれるだけでなく、特に８０カ国以上の国家元首や政府指導者、公式代表団が訪れるからだった。

参列者の中には、教皇フランシスコが使徒宮殿の中に設けた避難所で暮らすホームレスの人や教皇自身が２０１６年にギリシャ・レスボス島の難民キャンプから連れ帰ったシリア難民１２人もいた。

葬儀ミサで読まれた福音箇所（ヨハネ２１・１５～１９）で、復活したイエスはペトロに「わたしを愛しているか」と問いかけ、ペトロが「はい」と答えると、イエスは「わたしの羊を飼いなさい」と命じる。

「教皇フランシスコは、その最後の脆弱さと苦しみにもかかわらず、地上の生涯の最後の日まで、この自分をささげる道を歩むことを選びました」とレ枢機卿はミサ説教で強調する。「彼は、良い牧者である自分の主の足跡に従いました。主は、ご自分のいのちを与えるほどに、ご自分の羊を愛されたからです」

９１歳のレ枢機卿は会衆に向けて、こうした教皇フランシスコの姿は「私たちの記憶に刻まれ続けるでしょう」と語りかけ、逝去の前日に聖ペトロ大聖堂の中央バルコニーに現れて復活祭の祝福を送り、その後にもパパモービレに乗ってサンピエトロ広場に集まった人々の間を巡ったことを振り返った。

「教皇の地上から永遠のいのちへの旅立ちの後に私たちが目にした、人々の感動と参加のあふれるような表明は、教皇の深い教皇職がどれだけ人々の精神と心を打ったかを物語ります」と同枢機卿は指摘する。バチカンの推計によると、４月２３日から２５日まで教皇の遺体が安置されていた聖ペトロ大聖堂内には、多くの人は３時間から４時間も列で並んだ２５万人が弔問に訪れたという。

### 平和を訴え続けて　全ての人を癒やす

教皇の教会内での司牧奉仕を導いたのは、「教会が全ての人のための家だという確信でした。教会は常に扉が開かれた家です」とレ枢機卿は続ける。

教皇フランシスコにとって、教会は「野戦病院」だったとレ枢機卿は振り返り、「教会は、信条や状況を問わず、全ての人に身をかがめ、その傷を癒やさなければなりません」と強調する。

米国のドナルド・トランプ大統領やウクライナのウォロディミール・ゼレンスキー大統領、ロシアのオルガ・リュビモワ文化相が祭壇近くに着席している中で、レ枢機卿は指摘する。「最近数年間の多くの戦争の勃発と、非人道的な恐怖と数え切れない死と破壊を前にして、教皇フランシスコは、平和を願い、可能な解決を見いだすために理性と誠実な交渉へと人々を招くために絶えず声を上げました」

「教皇は何度も『壁を作るのではなく、橋を架けること』を呼びかけました。そして、使徒ペトロの後継者としての信仰への奉仕は、あらゆる次元における人類への奉仕と常に結び付いていました」と同枢機卿は付け加えた。

レ枢機卿はさらに、教皇フランシスコが絶えず移住者と難民に寄せていた強い関心を思い起こし、就任後最初の使徒的訪問は、イタリア南部のランペドゥーサ島で、地中海で溺れ死んだ移住者たちのために祈ったことから始まり、１６年にはレスボス島を訪れ、米国とメキシコの国境でミサをささげたことを挙げた。

### 「共に歩む教会」が　教えの実現に必要

葬儀ミサに参加した米東部ニュージャージー州ニューアーク教区大司教のジョゼフ・トービン枢機卿は、教皇フランシスコが残した貴重な遺産は、「共に歩む教会」となるよう呼びかけたことだったと指摘する。そこでは、全ての信者が教会の使命遂行への責任を担い、互いと聖霊の促しに耳を傾ける。

「そうした教会の実現が、教皇のその他の預言的な教えの結実に本当に必要なのです」とトービン枢機卿は続ける。

「シノドス的な（共に歩む）教会になれなければ」、教皇フランシスコが教えた環境保護や対話、人類のきょうだい愛だけでなく、福音の喜びを分かち合うことさえも難しくなると同枢機卿は付け加えた。

4月26日、葬儀ミサ後に聖ペトロ大聖堂内を運ばれる教皇フランシスコのひつぎの横に並ぶ枢機卿たち（OSV）

聖マリア大聖堂の側廊の壁龕につくられた教皇フランシスコの墓。4月27日早朝に撮影（CNS）

国　内

# 教皇フランシスコ追悼ミサ
## 東京カテドラルに1000 人集う

教皇フランシスコの写真を掲げ、追悼ミサを司式する駐日教皇庁大使と日本の司教、司祭団

バチカンで４月２１日に逝去した教皇フランシスコの追悼ミサが、同月２７日午後３時から、東京カテドラル聖マリア大聖堂（東京・文京区）で行われた（主催＝駐日ローマ教皇庁大使館／協力＝日本カトリック司教協議会、東京教区）。

前日２６日のバチカンでの葬儀ミサに続き、日本の教会として執り行う追悼ミサ。晴天に恵まれたこの日、大聖堂に隣接するカトリックセンター内に設けられた待機スペースには、午後１時半の受付開始前から長蛇の列ができた。

追悼ミサは駐日ローマ教皇庁大使フランシスコ・エスカランテ・モリーナ大司教が主司式し、日本の司教７人と司祭団が共同司式した。ミサ参加者は、秋篠宮皇嗣殿下や、駐日米国大使ら外交官、諸宗教関係者など来賓１００人ほどを含め約１０００人。そのうち約２５０人は大聖堂に入りきらず、敷地内のケルンホールで聖堂内の様子をモニターで視聴し、ミサに参加した。

### 牧者の声を聞き「心から燃え上がった」

開祭に当たり、エスカランテ・モリーナ大司教は参列者に日本語であいさつし、教皇フランシスコの牧者としての働きについて英語で述べた。

日本カトリック司教協議会会長の菊地功枢機卿（東京教区大司教）がローマに滞在中のため、菊地枢機卿が用意した追悼ミサの説教は、同協議会副会長の梅村昌弘司教（横浜教区）が代読した。

ミサ説教は、「愛する兄弟姉妹の皆様」という呼びかけで始まり、まず教皇フランシスコという力強い牧者を失う痛みに触れた。教皇がアルゼンチンで生まれ、イエズス会司祭として、そして教皇として、一貫して示し続けた「深い愛といつくしみに満ちた姿勢」を振り返る内容だった。

追悼ミサの開始を待ち、東京カテドラルの前で列を作る人々

２０１３年３月１３日、第２６６代教皇に選出されたフランシスコは、特に移住者や難民をはじめとする社会的弱者や疎外された人々に深い共感を示し、その権利を擁護。誰一人として排除しないという強いメッセージを発信し、世界平和と環境保護の重要性を訴えた。また互いに耳を傾け、支え合い、祈り合いながら聖霊の導きを識別する「シノドス的な教会」の姿を、未来に向けた教会共同体の指針として示した。

１９年の教皇訪日の際は、被爆地の長崎と広島、また東京において、対話による平和の実現と、全てのいのちを守ることの重要性を訴えた。教皇フランシスコは特に、核兵器の使用だけでなく、その保有自体も「倫理に反している」と明言。その牧者の声を直接聞いた日本の教会が「心から燃え上がった」瞬間についてもミサ説教で振り返った。

閉祭に当たり、大塚喜直（よしなお）司教（京都教区）が日本カトリック司教協議会のあいさつとして、来賓と参列者に感謝を述べた。

ミサに続いて、参列者が献花を行った。

### 「いつも寄り添ってくださったパパ様」― 参加者の声

千葉・西千葉教会の田島久仁子さん（６０）は、「参加者の中にはパパ様が大切にされていた、大勢の中にいながらも〝周縁〟に置かれているような方々も見受けられました」と、こう話した。

「戦争や若者の自死など、世の闇は深まるばかりに思えますが、私たちキリスト者が『本当の光』を照らし続けた教皇様から、希望のバトンを手渡されたと感じるミサでした。聖霊にお聞きしながら、その希望を（他者に）渡していきたいと思います」

日本カトリック障害者連絡協議会の会員で、視覚に障害のある山口和彦さん（７９／東京・吉祥寺教会）はこの日、教皇フランシスコが１９年に東京ドームで主司式したミサを思い出したという。「教皇様は、障害者や子どもなど（社会的に）弱い立場にある人に、いつも寄り添ってくださいました。世界でさまざまな分断が起こっている今、その大切さを改めて示してくださっていると思います」

ペルー出身のマリア・モイ・ベラさん（７０／神奈川・大和教会）は、世界平和のためにロザリオの祈りを続ける仲間と共に、教皇フランシスコのためにも祈ってきた。この日、祭壇前に掲げられた教皇フランシスコの大きな遺影の前で献花をした際、「すごく悲しくなった」と語る。

佐藤圭さん（４６／埼玉・北浦和教会）は、娘のあかねさん（１１）と二人で参加した。あかねさんは、「パパ様は私が生まれた年（２０１３年）に教皇になられて、私は（教皇様と）ずっと一緒でした」と話す。自身の堅信名フランシスカも、アッシジの聖フランシスコと教皇フランシスコにちなんだ名だ。

圭さんは２４年に指定難病に罹患（りかん）していることが判明し、治療しなければ余命２年余りと医師から宣告された。そこで今年３月、あかねさんとローマを巡礼し、入院中の教皇フランシスコのために毎晩続けられていたロザリオの祈りの集いに参加。「パパ様が復活祭に（皆の前に）戻って、主のご復活の喜びを分かち合ってから帰天された」不思議さが心に刻まれ、普段から関わりのある純心聖母会の修道女らと思いを分かち合ったと話す。「今は（パパ様を失った）寂しさと、娘の信仰が育まれ、私も薬で発症を抑えながら信仰生活を続けられていることを神様に感謝する気持ちとが、ない交ぜの状態です。そんな中で、社会的弱者や私のような病者に寄り添い、真の平和を証しされたパパ様がさらに近く親しく感じられ、私の中でイエス様の姿と重なっています」

追悼ミサの動画は、東京教区のＹｏｕＴｕｂｅ（ユーチューブ）チャンネルで視聴可能（下記 QR コードからアクセス可）。

他の多くの教区でも、追悼ミサを実施した。

国　内

# ワールドユースデー（WYD）のシンボル 十字架とイコン　全教会管区を巡る

カトリック信者の青年が世界中から集まるワールドユースデー（WYD／世界青年の日）世界大会の二つのシンボル、大十字架と聖母のイコンが、４月末から５月にかけて日本の３教会管区全てを巡回して青年や信者たちの歓迎を受けた。

WYD 世界大会は１９８５年、イタリア・ローマで始まり、以後２～３年おきに各国で開かれてきた。前回は２０２３年、ポルトガル・リスボンで行われ、次回は２７年に韓国・ソウルで開かれる。

シンボルの一つ、大十字架の長さは３メートル８０センチ。WYD 世界大会を最初に呼びかけた聖ヨハネ・パウロ２世教皇が１９８３～８４年の「あがないの特別聖年」にバチカンに設置し、その後、青年たちに託したもの。聖母のイコンは、教皇フランシスコがたびたびその前で祈ったことで知られている。

5月3日と4日、大阪高松教区の青年たちが大十字架と聖母のイコンを迎えた

4月29日、会場となった旧福岡カトリック神学院（福岡）に4教区から信者が参加した。十字架行列の後、十字架を礼拝する信者たち

この二つのシンボルは、昨年１１月にポルトガルの青年たちから韓国の青年たちに引き継がれた。４月２９日に福岡（長崎教会管区）に到着。大阪、名古屋（共に大阪高松教会管区）、東京（東京教会管区）を巡回した。

各地の参加者の声を一部紹介する。

「始終青年たちの明るい笑い声とまぶしい笑顔があふれていて、互いに助け合う姿に希望が見えました」（福岡教区広報担当　若狭千賀子さん）

「日本人も韓国人も、フィリピン人もベトナム人も、一つになれるような青年大会をまず日本国内で開き、その青年たちみんなで一緒にソウルの WYD 世界大会に参加すること。それが僕の夢です」（大阪高松教区　ウェン・フー・ジャブさん／３１）

「さまざまな国や町から名古屋教区に集まった青年たちで心を合わせて迎え入れ、共に喜び、分かち合い、祈りをささげることができました。とても温かい集いになったと思います」（名古屋教区　梁良（やなりょう）我（が）さん／２６）

5月6日、名古屋で

「いろいろな国からの参加者がいましたが、心が温かくなって、とても楽しくて、みんなで一つになりました。自分がカトリックの信仰を持っていることを、素晴らしいと感じています」（東京教区　ロイ・ヌーさん／27）

## WYD の感動 日本でも 広島教区青年が「フェス」

２０２３年のワールドユースデー（WYD）リスボン大会に参加した広島教区の青年たちは、現地で１８０万人ものカトリック青年と同じ思いを共有した。その人数の多さに勇気付けられ、感動して帰国すると、「日本でも同じように喜びを分かち合う機会を」と昨年１１月、山口市の山口教会を会場に「サビエルフェスタ」を開いた。２回目を今年４月２９日に行い、地元を巻き込んで１１００人の参加者を集めた。企画者たちは地域の人が誰でも「教会に行ってみよう」と思えるきかっけづくりを目指したという。

「サビエルフェスタ」の青年スタッフ

サビエル聖堂前の出店ブース

5月6日、名古屋カテドラル布池教会（愛知）で、青年たちが歌やダンスを披露して二つのシンボルを迎えたことを祝った

5月10日、東京カテドラル関口教会（東京）に到着した十字架とイコンを迎えた東京教会管区の青年たち

国　内

# 復活祭を前に振り返った 受洗の時
# 「神様が見せてくださった景色」
## 前川朝美（ともみ）さん（東京・瀬田教会）

カトリック教会では伝統的に、キリストが新しい命に生きることを祝う復活祭に洗礼式を行っている。志願者が信者として新しい命を歩み始める日としてふさわしいと考えられてきたためだ。聖土曜日の晩に行う「復活徹夜祭」も、翌日の「復活の主日（日中のミサ）」も、「復活の主日」（復活祭）として祝われる。今年は４月２０日に復活祭を迎えたが、これまで復活祭に受洗した人たちは、その日をどう思い起こしたのだろうか。２０１５年の復活祭に受洗した東京・瀬田教会の前川朝美（ともみ）さん（６５）は、あの日の聖堂内の景色が特別に胸に刻まれていると語る。

前川朝美さんが洗礼を受けた瀬田教会の聖堂内（写真：本人提供）

### 教会維持費も滞納「後ろめたかった」

朝美さんは１９８１年、カトリック信者で歌手の前川清（きよし）さんと結婚し、東京・世田谷区の瀬田教会に足を運ぶようになった。

清さんの両親は、潜伏キリシタンの信仰が継承されてきた集落や聖堂のある長崎県外海（そとめ）地区の出身だ。朝美さんは、夫の実家にあった聖母像を見て、「カトリックの家にお嫁に来た」ことを実感。当時、既に義父は他界していたが、信仰熱心な義母を見ながら、「カトリックの家の嫁として、役目を果たしたい」という前向きな気持ちになったという。

キリスト教について、司祭から何度か学んだこともあった。だが「神様を感じることができず」、以後は、義姉から受け継いだ「前川家の教会維持費を教会に届ける」役割を嫁として果たすため、夫が所属する瀬田教会へ。しかし３人の子育てで忙しくなると、教会には「数カ月に１度、行くか行かないか」になった。教会維持費も滞納しがちだった。

「教会の前を通る時はいつも後ろめたく、ミサに出ても聖堂の後ろの方でこそこそ（隠れるように）していました。誰からも信仰を強制されたことはありませんでしたが、当時健在だった義母の期待に沿うような信仰を持てず、申し訳なく思っていました」

２００７年、夫が代表取締役を務める芸能事務所の役員になると、朝美さんはさらに多忙になった。しかし子育てが落ち着いたある日、ふと「洗礼を受けたい」という願いが心に浮かんだ。経緯は覚えていないが、「自分でも驚きました」と振り返る。

### 聖堂内で感じた、神様からのお恵み

朝美さんは１４年、新たな気持ちで瀬田教会を一人で訪ねた。迎えてくれたのは、自身が２０代で初めて同教会に行った頃から「教会の〝主（ぬし）〟」のような存在感を放っていた信徒の森村登代子さんだった。「いつも聖堂の後ろにいた森村さんは、ミサに来た人に声をかけ、『あそこの席に（座ってください）』などと案内してくれるのです」。朝美さんは、「変わらない森村さんの風貌に驚きつつ」、懐かしい森村さんからの一言、二言の〝指南〟を手掛かりに、再び教会に通い始めた。

瀬田教会は、フランシスコ会・聖アントニオ修道院に隣接している。受洗の準備についても、森村さんからのアドバイス通り、同修道院に住む庄司篤神父（同会）の下で始まった。「聖書を中心にしたお話の中に、神父様と神様との親しさや、清らかさのようなものが伝わってきて、うれしく思いました」

朝美さんがその年（１４年）のクリスマスに受洗を希望していると森村さんに伝えると、一言、「それならクリスマスに教会にいらっしゃい」と返ってきた。そこで朝美さんは、洗礼を受けるつもりで１４年の１２月２４日の夜半のミサに参加した。だが洗礼式は行われず、教会には森村さんの姿もなかった。「後日知ったのですが、森村さんはその晩に倒れて入院されていました。そして後に、がんのため病院で亡くなられたのです」

この出来事から「『まだ受洗の時ではない』と神様から言われたように感じた」と朝美さんは言う。だが森村さんから紹介された庄司神父の下で学びたいという思いは消えなかった。洗礼の準備を続け、１５年の復活祭に洗礼を受けることが決まった。

こうして同年４月４日に行われた復活徹夜祭で、朝美さんは洗礼を受けた。その時の記憶はあまりないが、「何ともいえない〝色〟に満たされた聖堂内の景色」だけが心に刻まれていると話す。

「日暮れ前のような光がごくわずかに差し込む聖堂内は薄暗く、でも温かく落ち着いた雰囲気でした。（キリスト教国で目にする）大聖堂にも通じる、重厚な雰囲気の〝色〟でした。特別なお恵みを頂いたように感じて、そこからのスタートでした」

### 洗礼の日を勘違い

実は、朝美さんは、自身の洗礼式が行われる復活祭とは、「復活のお祝いパーティーがあると聞いた日曜日」のミサのことだと思っていたという。「なので、（復活徹夜祭の）洗礼式の時は普段着だったんですよ」と目を細め、懐かしそうに振り返った。

「でも、そんな失敗を含め、振り返ると、自分に必要なことばかりだったと思います」

その受洗式の翌日、「復活の主日（日中のミサ）」後のパーティーで皆に祝ってもらい、信徒としての「仲間入り」を実感した。手芸が好きな朝美さんは、毎週ミサ後、教会の「手芸部」（当時）の仲間と共に針仕事に精を出した。お茶当番などを担当する中で、知り合いも増えていった。

近年、夫の清さんは九州での仕事が増え、生活の拠点は福岡に移っている。朝美さんは２年ほど前から福岡に住む実父の介護も始まり、東京と福岡の往復が増えた。

ミサに参加できるのが月１度ほどになった今の朝美さんにとって、信仰の支えは主に二つある。一つは、月に１度、庄司神父から郵送される主日の福音朗読箇所の解説。そしてもう一つは、毎晩、就寝前に欠かさずロザリオを手に祈る清さんの存在だ。

朝美さんは、苦難も神から与えられた試練として受け止めるようになる中で、「人間として生まれた」キリストを、いっそう身近に感じるようになったという。

## 主日の福音解説

### ６月１日（主の昇天）
### ルカ ２４･４６ー５３

# 旅する教会

ルカ文書は主の昇天で終わり（ルカ福音書２４章）、主の昇天に始まる（使徒言行録１章）。ルカ福音書と使徒言行録の共通の著者と考えられているルカはなぜ両文書の終わりと始めに「昇天」を書いたのか。「先に第一巻を著して」それについては述べたのだから、「続編」では「昇天」後の話から書き始めてもよかったのではないか。なぜ、２度扱う必要があったのか。こうした疑問が引きも切らず湧いてくるのは私が門外漢であるせいに違いない。

ところで、新約聖書の中で「昇天」という言葉が名詞で登場するのはただの１回である。しかもその箇所が「昇天」の場面ではないというのだから驚きを禁じ得ない。「イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた」（ルカ９・５１）。ここで「天に上げられる」と訳されているギリシャ語のアナレームプシスがいわゆる「昇天」に該当する単語であり、字義通りには「上げられること」を意味する。

Ｅ・マルチネス神父（１９３１～２０２１年／イエズス会）は、主の昇天について語る際、先に引用したルカ９章に随分こだわって説明をする聖書学者の一人だろう。彼は、ルカにおけるイエスの「アナレームプシス（＝上げられること）」を単なる「昇天」とは考えず、受難・死・復活・昇天の全てを含む出来事だと強調する。しかもその始まりは「エルサレムに向かう決意を固められた」時にあると。従って、９章後半以降イエスの身に起こることは全てアナレームプシスなのだと言う。要するに、ルカにおける「昇天（＝アナレームプシス）」は「旅」なのだとマルチネス神父は言いたいのである。

これは例えば同じことを過越（すぎこし）祭の前後を挟んで「この世から父のもとへ移る」（ヨハネ１３・１）ことと考えていたヨハネとは幾分違うことになる。ヨハネにとってのそれは「移ること」であるのに対して、ルカのそれは「旅」なのである。

こうした解釈は必ずしも平明とは言い難いが、私たちも宣教という旅を通してこの神秘に参与すると考えるならば、主の昇天をお祝いする意味は少なくとも「天を見上げて立っている」（使徒言行録１・１１）ことにはないと言えそうである。今日の福音でもイエスは天に上げられる時、弟子たちに宣教の使命を授け祝福も与えている。さらには「地の果てに至るまで」（同１・８）証しすることが期待されている。

福音書において、ルカはイエスの時代の終わりとして一度は「昇天」を書いた。だが、その「続編」を書き始める際、今度は教会の時代の始まりとして、また新たにそれを書く必要を感じ取っていたと思われる。教会はいつの時代においても福音宣教をその使命とするものであり、宣教は「旅」となり、「旅」こそは主の昇天に起因するわれわれが生きるべき教会の本質なのだろうと思う。

（熊川幸徳（くまがわゆきのり）神父／サン・スルピス司祭会）

### ６月８日（聖霊降臨の主日）
### ヨハネ １４･１５ー１６、２３ｂー２６
### または ２０･１９ー２３

# 聖霊のたまものを頂ける条件

聖霊降臨の主日はイエス様がわたしたちに送ってくださると約束された聖霊が降ったこと、また、わたしたちが属している教会が聖霊によって誕生したことを記念します。

さて、今日の第１朗読（使徒言行録２・１－１１）は教会が聖霊によって始まったことを伝えています。まだユダヤ人を恐れて、弟子たちが皆で集まって静かに祈っていた時、聖霊が彼らの上に降ってきました。すると、使徒たちはこれまで話したことのない国々の言葉で神の業を説き始めました。人々は皆それぞれ自分たちの故郷の言葉でその説教を聞いたのです。言葉は異なっていましたが、その内容は同じでした。こうして、聖霊はこの世に遣わされ、神の救いを宣（の）べ伝える形で教会を導かれたのです。

そのため、教会に属しているわたしたちは皆、国も、言葉も、人種も、文化も、環境もそれぞれ異なっていますが、聖霊によって同じ主に仕え、同じ神に対して同じ信仰を告白することができるようになったのです。このように、それぞれ異なっているわたしたちを聖霊がキリストのうちに一つにしてくださるのです。使徒パウロは第２朗読でこのことについてよく説明しています。教会の中でわたしたちの役割や活動が違っても、わたしたちを一つにしてくださる方が聖霊なのです。

ところで、わたしたちは聖霊降臨に関するイエス様の約束の中で二つの点に注目する必要があります。

まず、どのような人に聖霊が降るのかについてです。イエス様は今日の福音の中で「わたしを愛する人は、わたしの言葉（掟（おきて））を守る」と２度重ねて言われます。そして２度目にはその結果についてこう言われます。「わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む」。つまり、神を愛し、イエス・キリストを通して与えられた神のみ言葉を守ることが聖霊降臨の前提であり、条件になるのです。

そして最も大事なのは、聖霊の役割です。ある意味で、聖霊はイエス様がわたしたちのために配慮しておいた保険だとも言えます。わたしたちは皆、イエス様のみ言葉を覚えて、常に守りたいと思いますが、なかなかうまくいきません。わたしたちの記憶力、理解力には限界があるので、イエス様のみ言葉を聞いてもすぐに忘れてしまいますし、その意味にも気付かないことが多いのでしょう。イエス様はそのようなわたしたちのためにご自分のみ言葉を忘れず、常に神を愛することができるように聖霊を送ってくださったのです。「聖霊が、すべてのことを教え、イエス様が話されたことをことごとく思い起こさせてくださる」（ヨハネ１４・２６参照）からです。それで、神を愛し、その言葉を守る人は、知恵と理解、判断と勇気、神を知る恵み、神を愛する心、神を敬う心という聖霊の七つのたまものを頂くことができるのです。

（ダニエル･キム･ドンウク〈金桐旭〉神父／韓国殉教福者聖職修道会）

主日の福音解説

**６月１５日（三位一体の主日）**
**ヨハネ １６・１２ー１５**

# 教会は三位一体の楽しい思い出

子どもの頃の話です。教会学校に行くと、やさしい助任神父さんがお仕事をされていました。神父さんの近くに座って友達が来るのを待っていました。友達が一人また一人とやって来て、みんなで元気よく遊びました。とても楽しかった教会での思い出です。

「主の造られたこの地上の人々と共に楽を奏し人の子らとともに楽しむ」（第１朗読 箴言（しんげん）８・３１）

イエス様にとって、神様のお造りになったこの地上でわたしたちと一緒におられる時が一番楽しい時間です。楽しい笑い声が響く教会はイエス様もわたしたちも大好きです。

冒頭で話した神父さんはわたしが司祭になる２年前に急に天に召されました。あの時は泣きました（T_T）。司祭として一緒に働くことを夢見ていたので…。人との別れは耐えることができない本当につらいものです。

「あなたたちに言わなければならないことが、いっぱいあります。今のあなたたちではまだ無理です。でも、心配しなくて大丈夫です」（ヨハネ１６・１２参照）。弟子たちとイエス様との別れの時が来ます。別れの寂しさは楽しさを全て忘れさせてしまいます。「あなたたちを元気にさせるエネルギーが来ます。そして、あなたたちをありのままに導いてくださる」（同１６・１３参照;「真理の霊」にはありのままの元気なエネルギーという意味もあります）。イエス様が約束されたありのままの元気は、同じ痛みを持っている人々に耳を傾けるようにわたしたちを導きます。弟子たちは寂しく、悲しみに打ちひしがれている人々に声をかけます。イエス様は弟子たちの口を通してやさしく語りかけます。「あなたのことが大切です。あなたがいてくれて、わたしは本当にうれしい！」と。「神様のものである皆さんはわたしのものですよ（同１６・１５参照）」。イエス様に呼び集められたイエス様のものであるみんなが教会なんです。

「お行儀よく、静かに」と決して言わない神父さんでした。生まれつき３０秒もじっとしていることができないわたしでしたが、神父さんの横で座っている時、わちゃわちゃせず静かに友達を待っていることができました。あのやさしい時間は何もしていなくても楽しかったものです。

ありのままを受け入れ合う三位一体の交わり。ありのままの元気によって教会には神の愛が注がれ続けています。そこで友達と過ごす楽しさ、わたしたちの元気の中に「あなたたちと一緒にいるとき、わたしは楽しいよ」と喜ぶイエス様の声が響きます。「聖霊によって神の愛が注がれる」（第２朗読 ローマ５・５参照）。

皆さんの教会は楽しいですか？（^^）

（寺浜亮司神父／福岡教区 ）

**６月２２日（キリストの聖体）**
**ルカ ９・１１ｂー１７**

# キリストの豊かさを味わう

大勢の人たちにイエスがわずかな食べ物で満腹するまで食べさせたという奇跡物語が本日のルカ福音書の内容です。

大群衆を前にした時の弟子たちとイエスの姿勢は対照的です。弟子たちは「群衆を解散させてください」とイエスに進言します。

解散させれば自己責任で周りの村や里へ行き、食べ物を見つけるに違いないというわけです。しかも「わたしたちはこんな人里離れた所にいるのです」と自分たちの提案の正当性を主張しています。

このような弟子たちにイエスは「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と命じます。弟子たちは「わたしたちにはパン五つと魚二匹しかありません」と答えています。

こんなに大勢では自分たちが持っているわずかな食べ物だけではどうにもならないというかのように、もう初めから諦めています。

「男が五千人ほどいた」ということは、女性や子どもを加えると、実際そこにいたのは五千人をはるかに超える人数だったということになります。この圧倒的な数を前にした弟子たちが初めから諦めてしまったのも無理からぬことです。

しかし、イエスはこのどうしようもない現実から始めようとします。

「五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡し」たというイエスの所作はミサを思い起こさせます。

五千人以上の人々を前にしてわずかな食べ物しかない、その現実をイエスはまず神にささげて祈り、再びパンと魚を受け取り直します。

そのことによって食べ物は配っても配ってもなくならないものになりました。また「すべての人が食べて満腹した」と説明されています。

圧倒的な現実を自分の努力や頑張りだけで何とかしようと考えるならば、弟子たちと同じように絶望や諦めに陥ってしまうでしょう。

しかし、人間の力に頼るのではなく、神に委ねるとき、確かな恵みが与えられることを奇跡物語は示しています。

パンが増えたわけではないのに（実際、パンが増えたとは書かれていません）全ての人が食べて満腹したというのは、キリストが与えてくださるものの豊かさを表しているのではないでしょうか。

わたしたちはミサ全体を通して、またご聖体を通して、キリストの豊かさを味わいます。

（立花昌和神父／東京教区 ）

## 主日の福音解説

### ６月２９日（聖ペトロ 聖パウロ使徒）
### マタイ １６・１３－１９
### 聖ペトロ使徒座への献金

# ペトロの幸い

皆さんにとってイエス様はどのような存在でしょうか。その答えは、私たちがイエス様とどのように関わっているかによって違ってくるでしょう。

今日の福音でも、イエス様がご自分のことについて人々がどう考えているか弟子たちに問うと、さまざまな答えが返ってきました。イエス様は人々の意見を聞いた上で「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか」と問いかけられたので、私たちはこの問いを真剣に受け止め、どのように答えるかを探し求めていかなければなりません。

シモン・ペトロの答えはこうでした。「あなたはメシア、生ける神の子です」。これはイエス様との関わりの中で、普段からそう思っていたことが言葉になったペトロの素直で率直な気持ちだと思います。ペトロにとってイエス様は自分の目の前に生きておられる方であり、福音そのものでした。自分を弟子として召し出した方であり、自分の人生を決定付けた方。自分の心をかき立て、燃え立たせてくださる方。想像できないくらい自分を愛してくださり、両手を広げて包み込んでくださる方。そのような方が自分と関わっておられる。ペトロはこの短い言葉にこのようなことを込めました。

このペトロの答えを聞いたイエス様は「あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」と言われました。神様が働きかけなければ、神様が示してくださらなければ、私たちはイエス様が何者か分からないのです。そのような意味では、神様がペトロに働きかけ、悟らせたと言えます。イエス様はメシアであり、生ける神の子だと心から宣言することは、神様がそう気付かせてくれているので幸いなことなのです。

さらに、イエス様はペトロという岩を土台として、その上に「わたしの教会」を建て、ペトロに天の国の鍵を授けると約束されました。イエス様はペトロを選んでご自分の教会の土台とし、ご自分の教会のかじ取りを委ねた。この地上で、何がイエス様の望みにかない、何がそれに反するのか、それを決定する権限をペトロに委ねられたのです。

ペトロが使徒の頭に選ばれたのはなぜだろうか。不器用でありながら情熱にあふれ、単純で人間的。ペトロという人物を思い浮かべながらそんなことばかりを考えていましたが、イエス様が見ていたのは、ペトロがイエス様の言葉にどれほど信頼していたかということだったのではと思うのです。それはイエス様と初めて出会った瞬間から、ペトロは素直にイエス様の言葉を受け止めて、それに応えようとしていたからです。

地上の生涯をイエス様と共に、イエス様のために生きたペトロの最期は、ローマでの殉教でした。その時ペトロは「あなたは幸いだ」と言われたイエス様の言葉を思い出し、心から感謝と喜びを味わったのではないでしょうか。

（尾髙修一神父／長崎教区　カットは全て高崎紀子）

## 文　化

### 教皇フランシスコのメッセージが分かる 映画・記録映像５選

教皇フランシスコは、在位１２年間でカトリック教会を劇的に改革し、私たちにその遺志を引き継ぐべく多くの〝宿題〟を出して旅立った。そのメッセージの一端が分かる映像を幾つか紹介する。

５月に東京で緊急追悼上映された映画『ローマ法王になる日まで』（２０１５年）。ホルヘ・マリオ・ベルゴリオ青年が、教皇フランシスコになるまでの激動の半生を描いた実話だ。母国アルゼンチンでは１９７６年から８３年まで、軍事独裁政権が続いた。自由と正義を求めた司祭や、反政府の嫌疑をかけられた信者たちは殺されることもあった。ベルゴリオは、人々を守るために〝最善〟を尽くすのだが…。教皇フランシスコの原点が分かる。

『ローマ法王のアンサー』（２０２３年）は、宗教や文化の違うさまざまな背景を持つ１０人の若者たちが教皇フランシスコと本音で対話するドキュメンタリー。中には、カトリック学校で性虐待を受けた若者もいる。彼らが泣きながら訴える心の叫びに、教皇はどう答えるのだろうか。Ｄｉｓｎｅｙ＋（ディズニープラス）で配信。

またドキュメンタリー映画『旅するローマ教皇』（２２年）では、教皇フランシスコが、人の死に何も感じない「無関心」の文化に警鐘を鳴らす。Ｕ－ＮＥＸＴ（ユーネクスト）とＰｒｉｍｅ Ｖｉｄｅｏ（プライム ビデオ）で。

そのほか、ドキュメンタリーシリーズ『賢人たちと教皇フランシスコ―未来へ託す人生の言葉―』（２１年）、そしてドキュメンタリー映画『ローマ法王フランシスコ』（１８年）はＮｅｔｆｌｉｘ（ネットフリックス）で配信中。

映画『ローマ法王になる日まで』©TAODUE SRL 2015

### 沖縄各地における慰霊の姿 描く 映画『 摩文仁 mabuni 』

「摩文仁（まぶに）」とは、沖縄島南端に位置する沖縄戦（１９４５年）の激戦地。現在は民間人、軍人、国籍も問わず沖縄戦で亡くなった全ての犠牲者の名を刻む「平和の礎（いしじ）」などの慰霊碑が築かれ、毎年６月２３日の「慰霊の日」には追悼式典が行われている。

映画『摩文仁（まぶに） mabuni』のポスター

本作は、中東などの紛争地のほか沖縄で取材を重ねてきたジャーナリストで映画監督の新田（にった）義貴さんが、この摩文仁の丘を中心とした、沖縄各地における人々の慰霊の姿を描く。主人公は、沖縄戦で集団自決が起きた壕（ごう）にいたが生き残り、戦後は無名の遺骨を納めた「魂魄（こんぱく）之塔」のそばで半世紀以上もの間、参拝者に花を売り続けてきた女性だ。

カメラは戦争犠牲者を悼む「慰霊」と、国家のために戦った兵士を〝英霊〟としてたたえる「顕彰」の場も写し、沖縄と日本本土の心情的な分断も浮き彫りにする。核兵器廃絶への姿勢などあらゆる面で世界の分断が深まる今、本作を通じて自身と異なる思想を持つ人の祈りや平和への思いに触れることは、分断の世に橋を架けることにつながり得るのかもしれない。

６月７日から桜坂劇場（沖縄）で先行公開。同月２１日からシアター・イメージフォーラム（東京／電話０３－５７６６－０１１４）でロードショー。

カトリックジャパンニュースでは映画の公開に向け、キリスト者である新田さんのインタビュー記事も紹介する。

# 訃　報

里見和代修道女（聖心侍女修道会）　４月４日、神奈川県鎌倉市内の病院で逝去。91 歳。1934 年 静岡県生まれ。59 年同会入会。63 年初誓願。69 年終生誓願。若い頃大学入学を望んでいたが、生まれつき病弱であったため進学しなかった。初誓願後に大学入学を試み、清泉女子大学のキリスト教文化学科に入学するものの健康に影響を来し、１年で退学を余儀なくされた。その後は、三原（広島）、大船、鎌倉（以上神奈川）、長野（長野）、五反田（東京）で修道院の受付や衣類係などの仕事、また小学生や中学生の宗教の授業などに携わった。その間、東京の用賀修道院では、清泉インターナショナル学園の幼稚園で子どもたちの同伴、学園の聖堂の香部屋（こうべや）係、事務の手伝いなどの役割を喜びと忠実さをもって果たした。いつもほほ笑みをたたえ、謙虚で誰に対しても優しく心を開いていた。その人柄から子どもたちに慕われ、多くの人たちと親交があった。修道院の中では、高齢になってもユーモアを忘れず、共同体の皆に愛された。

田口春江修道女（純心聖母会）　４月 16 日、慢性心不全のため逝去。95 歳。1930 年長崎県生まれ。46 年同会入会。53 年初誓願。62 年終生誓願。同会島原修道院をはじめ、長崎の７カ所と広島に派遣され、幼児教育の分野で教諭・主任を務めた。子どもたちや保護者、教会の信徒らとの交わりの中で宣教活動に励んだ。最後は再び島原（長崎）に派遣され９年間教会に奉仕。同会初代会長・江角（えずみ）ヤスの深い愛からほとばしる言葉を、本物の修道女となるための原動力とし、これを生涯の支えとした。2023 年から介護老人保健施設で温かい介護を受け、４月 16 日午前５時 33 分、静かに御父のみもとに召された。

# 告知板

■東　京

**▶希望のトリニテ展―聖年によろこびの光を―**　６月３日（火）～９日（月）午前 10 時～午後７時（８日〈日〉は午後１時～午後７時／最終日は午後５時まで）、教文館３階ギャラリーステラ（中央区）。出展者＝赤木美日（みか）、浦田カズ代修道女（純心聖母会）、伊藤輝巳（てるみ）。無料。電話 03－3561－8448　ギャラリーステラ

**▶カリタス東京主催「能登半島地震被災地報告会」**　６月７日（土）午後１時～３時 30 分、麹町教会アルペホール（信徒会館３階）。被災地報告会、質疑・応答、茶話会。報告者＝片岡義博神父（名古屋教区／カリタスのとサポートセンター長）。下記 QR コードから要申し込み。電話 080－8259－0993　カリタス東京事務局　田所

**▶女声合唱団コーロ・コスモス演奏会**　６月 28 日（土）午後２時、浜離宮朝日ホール（中央区）。プログラム＝女声合唱組曲「マリアの歌」（髙田三郎 曲／村上博子 詩）他。二千円。電話 080－5422－4699 有薗、✉coro_cosumosu@yahoo.co.jp　女声合唱団コーロ・コスモス

■京　都

**▶春の講演会「フランクル心理学に学ぶ喪失からの再生」**　６月８日（日）午後３時～４時 30 分、京都ノートルダム女子大学 ND ホール。講師＝加藤美紀修道女（シャルトル聖パウロ修道女会／仙台白百合女子大学学長）。無料。✉info_event@ml.notredame.ac.jp　京都ノートルダム女子大学カトリック教育センター

■福　岡

**▶遠藤周作『影に対して―母をめぐる物語―』（新潮文庫）読書会**　６月７日（土）午後２時～４時、福岡黙想の家入口カトリック案内所（宗像〈むなかた〉市）。無料。参加予定の方は要事前連絡。電話 090－6420－1783　「キリスト教と文学」読書会グループ　戸上

# 番　組

**ラジオ心のともしび**

（朗読・坪井木の実）

６月の放送日と執筆者　２日（月）コリーン・ダルトン・３日（火）森田直樹・４日（水）熊本洋（よう）・５日（木）こいずみゆり・６日（金）古川利雅・７日（土）村田佳代子・９日（月）崔友本枝（ちぇー・ともえ）・10日（火）越前喜六・11日（水）許書寧（きょ・しゅにん）・12日（木）岡野絵里子・13日（金）古橋昌尚（以上テーマ「小さな幸せ」）・14日（土）中井俊已（「日常の幸せ」）・16日（月）萩原久美子（「小さな幸せ」）・17日（火）竹内修一（おさむ）（「ささやかな幸せ」）・18日（水）湯川千恵子・19日（木）谷口恵美（めぐみ）（以上「小さな幸せ」）・20日（金）片柳弘史（ひろし）（「どんなことにも感謝」）・21日（土）服部剛（ごう）（「幸せ」）・23日（月）今井美沙子（「幸せいっぱい」）・24日（火）山本久美子・25日（水）三宮麻由子・26日（木）山本ふみり・27日（金）松浦信行・28日（土）植村髙雄（以上「日常の幸せ」）・30日（月）堀妙子（「日常の幸せを離れて」）。

代表役員に就任＝5月1日付・奥本裕（ゆたか）。ホームページ（下記 QR コードでアクセス可）では24時間視聴可能。詳細は電話075－211－9341。

**ラジオ　ＹＢＵ　心のともしび　５分**

| 放送局 | 放送日（曜日）時間 | |
|---|---|---|
| ＳＴＶラジオ | 月～金 =5:35 | 土 =5:00 |
| エフエム青森 | 月～土 =6:50 | |
| ＩＢＣ岩手放送 | 月～土 =5:20 | |
| ラジオ福島 | 月～土 =5:25 | |
| エフエム仙台 | 月～金 =5:55 | |
| 山形放送 | 月～土 =5:10 | |
| エフエム秋田 | 月～土 =5:55 | |
| 新潟放送 | 月～金 =5:25 | 日 =6:20 |
| ニッポン放送 | 月～金 =5:35 | 土 =5:25 |
| 信越放送 | 月～金 =5:25 | 日 =6:15 |
| 山梨放送 | 月～土 =5:25 | |
| 静岡放送 | 月～金 =5:25 | 土 =5:40 |
| 福井放送 | 月～金 =6:45 | 土 =5:50 |
| 北陸放送 | 月～土 =5:15 | |
| 東海ラジオ放送 | 月～金 =5:45 | |
| 北日本放送 | 月～金 =6:30 | 土 =5:30 |
| ＫＢＳ京都 | 月～金 =5:55 | 土 =5:15 |
| 毎日放送 | 月～金 =5:45 | 土 =4:55 |
| 和歌山放送 | 月～金 =6:35 | 日 =6:15 |
| ラジオ関西 | 月～金 =5:35 | 日 =6:05 |
| 山口放送 | 月～土 =5:25 | |
| 中国放送 | 月～土 =5:00 | |
| 山陽放送 | 月～土 =5:25 | |
| 山陰放送 | 月～土 =5:25 | |
| 南海放送 | 月～金 =5:25 | 土 =6:45 |
| 四国放送 | 月～金 =5:10 | 土 =6:10 |
| 高知放送 | 月～金 =5:20 | 日 =6:35 |
| ＲＫＢ毎日放送 | 月～金 =5:25 | 日 =6:00 |
| 熊本放送 | 月～金 =5:10 | 日 =6:05 |
| 長崎放送 | 月～金 =5:25 | 土 =6:35 |
| 大分放送 | 月～金 =5:25 | 土 =7:00 |
| 宮崎放送 | 月～土 =5:20 | |
| 南日本放送 | 月～金 =5:25 | 日 =6:05 |
| 琉球放送 | 月～土 =5:25 | |

## きょうをささげる（祈祷の使徒）６月

**【教皇の意向：世界に思いやりの心を育む】**

私たち一人ひとりが、イエスとの人格的な交わりの中でなぐさめをいただき、イエスのみ心によって、世界に対して思いやりの心を育むことができますように。

**【日本の教会の意向：難民移住移動者】**

さまざまな理由で故郷を離れざるを得ない人たちをお守りください。私たちが兄弟姉妹として、彼らを受け入れるための必要な環境を整えることができますように。

６月はイエスのみ心を祝う月です。それは私たちの罪深さを裁くよりも、人間の持つ弱さを知り、人間を深くいつくしみ、罪をゆるし、愛そのものの神へと立ち返らせようとするイエス・キリストの心に触れることです。現代の世界ではますます自国中心主義の傾向が広がり、不寛容や差別、分断と紛争が広がっています。そのような中で新教皇レオ１４世は選出後の最初の祝福で「人類は、神とその愛に達するための橋として、この方（キリスト）を必要としています」と言われました。私たちの世界は架け橋を必要としています。その架け橋の中心であるイエスとの人格的交わりを深めることで、一人一人が思いやりの心を豊かに育み、人々の架け橋となっていけるよう祈りましょう。

＊

日本における難民認定率は依然として先進諸国と比べて非常に低く２０２４年は１．５４％でした。難民の受け入れに対する政府の消極的で不寛容な姿勢は、難民の居住、医療扶助、就労支援にさまざまな人権問題を引き起こしています。日本で働き住むためにやって来る外国人移住者の数も２００万人を超えるほどに増えていますが、長時間労働や低賃金、生活支援不足など、ここでも多くの問題が指摘されています。迫害を逃れてきた難民や新生活を求めてやって来た移住移動者が、たどり着いた国において人生を自由に選び、自分の能力を生かし、家族との幸せな生活を築くことができる社会を整えられるよう祈りましょう。